

Title	後土御門帝期における宮中の謡
Author(s)	和田, 克司
Citation	語文. 1968, 28, p. 34-41
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68585">https://hdl.handle.net/11094/68585</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

注六

文明8年7月13日(実隆のみ)。9年7月12日。10年7月12日。12年7月9日、11日(狂ふ)。14年7月10日。15年7月11日。16年7月11日。17年7月11日(実隆にも)。18年7月11日(実隆にも)。19年7月11日(実隆にも)。長享3年7月10日(入端もあり、実隆にも)。延徳2年7月10日、11日(実隆にも)。3年7月4日、10日。4年7月10日、12日。明応2年7月10日。3年7月9日。4年7月6日、10日。5年7月9日(実隆にも)。6年7月10日(能もあり)。7年7月9日(能もあり、実隆にも)。8年7月9日、10日(入端もあり)。9年7月9日(能もあり)、11日(狂言もあり)。

以上田楽事における場合と同じように「お湯殿」をもとにして、謡の記事のある日を示し、「実隆公記」にもある場合は「実隆にも」などと略記した。

注七

「お湯殿」の同年六月三十日の「かめつるちこめして御うたひうたふ」の記事は「御謡ひ謡ふ」なら諷刺中における唯一の例となるが、水無月祓の日に謡の記事が見られぬところから、「御かたひらたふ」などの誤写の可能性がある。

(四十二年十一月)